

みずほマーケット・トピック(2019年4月8日)

ブレグジット情勢を巡る Q&A ~ 臨時首脳会議を前に ~

今週 10 日、EU は臨時首脳会議を開催する。英国からは 6 月末までの短期の再延期を求める書簡が公表されているが、EU が再延期を承認するために相応の理由が必要である。言い換えれば、「6 月末までの時間で必ず英議会の意見をまとめられる」という勝算が必要である。残念ながらそのような勝算は立っていない。英議会が離脱協定案を可決しない限り、英国の EU 残留は「4 月 12 日」で切られることになっている。客観的に見ると現在はそのコースを走っているようにも見えるが、12 か月延長案も EU 大統領の胸中にあるという報道もある。この期に及んでも論点が交錯し現状把握すら難しくなっているのは異常だが、臨時首脳会議に臨む前に Q&A 方式で整理をしておきたい。現時点の報道を見る限り、臨時首脳会議のテーブルに乗ってきそうな案は ノーディール、12 か月延期 < EU 案 >、6 月 30 日まで延期 < 英国案 >、そして、元々定めていた (欧州議会選挙前日の) 5 月 22 日まで延期という 4 つの選択肢か。いずれの可能性も突出して高いわけではなさそうだが、EU が望むのであれば の可能性はやや優位か。

~ 依然、混迷を深めるブレグジット ~

今週 10 日、EU は臨時首脳会議を開催する。英国からは 6 月末までの短期の再延期を求める書簡が公表されているが、EU が再延期を承認するために相応の理由が必要である。言い換えれば、「6 月末までの時間で必ず英議会の意見をまとめられる」という勝算が必要である。残念ながらそのような勝算は立っていない。英議会が離脱協定案を可決しない限り、英国の EU 残留は「4 月 12 日」で切られることになっている。客観的に見ると現在はそのコースを走っているようにも見えるが、12 か月延長案も EU 大統領の胸中にあるという報道もある。この期に及んでも論点の交錯し現状把握すら難しくなっているのは異常だが、臨時首脳会議に臨む前に Q&A 方式で整理をしておきたい。

Q1. 今はどういう状況なのか？

当初の離脱予定日(3月29日)は4月12日に延期されている。再延期には英国を除く27か国の同意が必要な情勢。なお、昨年12月、欧州司法裁判所が「英国は一方的にEU離脱の意向の通知を取り消すことができる」との見解を示し話題となったが、これはあくまで「3月29日の前ならば」である。今後はEUとの話し合いの末、同意が必要になる。しかし、既に欧州委員会からは「忍耐の限界(7日、ユンケル委員長)」とのコメントが出ており、フランスなど一部加盟国からはもう待つ必要はないという強硬な意見も出ている。既報の通り、今週10日の臨時EU首脳会議でトラスクEU大統領から加盟国に対して12か月間の延期案が提案されると報じられている。だが、先週5日にはメイ英首相からトラスク大統領に宛てて、6月30日までの短期延期を要請する書簡が送付されている。要するに、EUの立場が「ノーディールか、長期(12か月)延期ならば検討に値する」であるのに

対し、メイ政権は「短期的な延期を認めて欲しい」という球を投げた状況と見受けられる。この期に及んで行われた勝算の無い延期要請を EU が取り合う可能性は高くないだろう。

Q2.メイ首相は与野党協議をしているというが、何故か？

端的に言えば、メイ首相は与党を見限ったということであろう。先週 2 日、メイ首相は約 7 時間に及んだ閣議の終了後に声明を発表し、ノーディール離脱を回避するため与野党間で合意可能な離脱案を模索する方針を発表した。これまでメイ首相は様々なアプローチを試行しつつ、強硬離脱派や民主統一党(DUP)の説得を試みてきた。だが、議会における離脱協定案の否決は 3 度に及んでいる。解散総選挙、再国民投票、残留、ノーディールなど、大きなカードをちらつかせつつ説得しようにも実現可能性はないと判断したのだろう。しかし、既に労働党からは「政府に譲歩の意思がみられない」などと早速交渉が難渋している様子が伝わってきている。身内(保守党)を捨てて敵にすぎりついたが、その敵からもやはり見放されたということであれば最悪の展開である。メイ首相は今年 12 月までは党内の不信任動議の対象にはならないが(昨年 12 月に否決されており 1 年は同様の措置は不可能であるため)、閣僚の大量辞任などで政権運営が立ち行かなくなる可能性はある。今後は「身内を刺した代償」もメイ首相の身に降りかかる恐れがあるだろう。

どのような形にせよ、離脱期限の再延長を認めてもらうために英国政府は今週 10 日の臨時 EU 首脳会議に「英議会で承認した離脱協定案」を持ち込まねばならない。実態としては「遅くとも 9 日の午前」までに EU は回答を欲しているという報道もある(10 日の会議で決定しなければならないのならそれでも遅すぎるくらいだろう)。仲間割れをしている内に時間は刻一刻と迫っている。

Q3.4 月 10 日に議論されること、承認されそうなこと

報道を見る限り、臨時首脳会議のテーブルに乗ってきそうな案は ノーディール、12 か月延期<EU 案>、6 月 30 日まで延期<英国案>、そして、元々定めていた (欧州議会選挙前日の)5 月 22 日まで延期という 4 つの選択肢である。 は明らかにメイ政権が議会をまとめられずに持ち出してきた「見切り発車」のカードである。フランスやオランダの高官からは既に苦言が報じられており、全加盟国の承認というハードルは相応に高そうに見える。とはいえ、 を望む国が多い訳ではなく、英・EU ともにそれだけは避けたいという基本方針は変わっていないだろう。筋を通すのであれば のスケジュール通りに離脱協定案の内容に沿って粛々と離脱、もしくはノーディールで離脱とすべきである。だが、周知の通り、5 月 22 日まで待ってもらえるケースはあくまで「英議会在離脱協定案を議会で可決した場合」の条件付きであるため、今の英国政府にこれを希望する権利はない。ちなみに、英国が欧州議会選挙に参加をする場合、その 6 週間前までに通知する必要がある。5 月 22 日の 6 週間前こそが 4 月 12 日であり、EU が設定した実質的な交渉期限である。

とすると、 の可能性が残る。交渉上、強い立場にいる EU(の大統領)がこれを望んでいるのだとすれば、有力な選択肢と言わざるを得ない。報じられているように、厳密には同案は 12 か月「以内」という解釈が正しそうだ。具体的には「英議会在離脱協定案を可決次第、離脱させる」という案であり、英議会内の強硬離脱派にも配慮した折衷案と言える。不毛な小幅延長を避けるには妙案であろう。英議会の強硬離脱派が反対することが予想されるものの、12 か月という期限が切られていれば譲歩の余地もあるのではないかと。しかし、これまでの経緯を踏まえれば、「許されている時間」

が 12 か月あるならば、間違いなく英国は 12 か月を使い切るはずだ。そうすると EU も金融市場も、またあと 1 年この話題に付き合わねばならなくなる。ユーロ圏財務省や共通予算といった大型改革を提案し、これを主導したい立場にあるマクロン大統領などはこの状況が看過ならない姿勢だと報じられている。マクロン大統領の場合、自身の支持率が青息吐息なので「出来る時にやりたい」という思いが殊更強いことも影響していそうだが、いつまでもこれから出て行く国に時間とコストを掛け続けるのが得策ではないのは間違いない。端的に言えば、EU からすると「改革の邪魔だから早く出て行って欲しい」が本音ではないか。12 か月延期案が全会一致で承認されるのかも不透明である。

Q4.12 か月延期の場合、欧州議会選挙は？

仮に EU が主張する 12 か月延期案が通った場合、英国が 5 月 23～26 日の欧州議会選挙に参加するか否かという問題が出てくる。強硬離脱派への配慮からメイ政権は欧州議会選挙への参加を拒んできたが、書簡では「事態を開きできなかった場合には、議会選挙の準備に責任を持つ」と参加止む無しの雰囲気を含ませている。しかし、いずれ離脱すると分かっている加盟国を欧州議会選挙に参加させること自体、EU としては「負けに等しい譲歩」という面もある。少なくとも欧州議会選挙後に行政府たる欧州委員会の執行部が一新される際、英国人の候補者が選ばれることは無いであろうし、次期中期予算(2021～27 年)の策定議論にも関与を認めるわけにはいかないだろう。そう考えると、こんなに無駄なことはあるまい。わざわざコストと時間をかけて英国を欧州議会選挙に参加させるのは馬鹿げている。何からの規則修正によって参加させないことも考えられる。

厄介なことは、交渉が伸びるほど「再国民投票および残留」という選択肢も浮上してくるということだ。実際、メイ英首相は 6 日、膠着状態がこれ以上長引けば、「離脱を成し遂げられない恐れが高まる」と警告し、強硬離脱派に支持を呼びかけている。仮に残留を視野に入れるのであれば、欧州委員会や欧州議会に英国人がいないことも中期予算の編成過程に意思が反映されないことも問題になりかねない。そうした面倒な論点を検討しなくても良いために「5 月 22 日までに出て行ってほしい」が EU の胸中なのであろう。なお、仮に残留となったとしても、かつて英国だけが有していた特権はもはや認められない可能性が高い。英国だけに認められている EU 予算からの払戻金(いわゆるリベート)を筆頭に、パスポートコントロールを解除するシェンゲン協定への不参加、新財政協定への署名拒否、銀行同盟への不参加などの特別扱いを全て存続させることにはなるまい。短期的な経済効果を踏まえれば残留は離脱よりもポジティブとの試算が目立つが、残留しても以前のような政治・外交上の発言力は期待できないはずだ。一部加盟国が「ノーディールでも構わない」と公言し始めている現状は、もはや EU における英国の政治資源が払底しつつある証左である。

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL: 03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか?
2019年4月2日	円高を阻む経常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～敢えて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(ブレグジット交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか?～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	ブレグジット、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分)
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げでせずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか?～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常態にあるのか?
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	バイマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	ブレグジット交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～
2019年1月22日	堅調なユーロ相場の背景にある欧州の減速
2019年1月21日	対米貿易黒字ゼロ計画について～マッチポンプは終わらず～
2019年1月18日	週末版(正常化どころではないECBを取り巻く近況～市場のメインシナリオは転換済み～)
2019年1月17日	英国情勢の論点整理～「壮大な茶番劇」に終わるか～
2019年1月11日	週末版
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～真正正銘のリスクオフの前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCの前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか?
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の勘所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツそしてEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追隨する株価～
2018年12月4日	バリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーディールを視野に入れ始めたボンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの拳動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜きん出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～